

広告

宇部興産中央病院医療最前線  
—シリーズ患者さんに寄り添う専門医療(12)—

# インフルエンザ

## 症状と対処法



総合診療科  
医長  
多原 加奈

専門分野 ●総合診療 ●内科一般

寒い季節となつてまいりました。これからインフルエンザの流行が本番を迎える時期となります。総合診療科にも、この時期になると毎年インフルエンザの方がたくさんいらっしゃいます。今回はインフルエンザとはどういった病気なのか、また、どのように対処すれば良いのかお伝えいたします。

インフルエンザと風邪症候群との区別は簡単ではないのですが、インフルエンザの症状として特徴的なのは「突然の発熱・強い倦怠感・四肢痛」の三つの症状といわれています。また、感染力が強いため、インフルエンザが近くで流行しているかどうか、重要な情報です。身体所見としては、喉が赤いかどうかが大切です。検査は咽頭ぬぐい液による迅速検査を用いており、長い綿棒を用いて鼻の奥の粘液を採取して検査します。ただし、この検査は感度が低く、「陰性」という検査結果が出ても実はインフルエンザであることも多いのです。このため、症状が疑わしかったり、周りで流行している場合は検査が陰性でもインフルエンザと診断することもあります。ちなみに通常発症12時間以内や、48時間経過すると特に検査の正確さが下がってしまいます。検査で「陽性」となれば、インフルエンザであることはほぼ確定的ですが、前述のように「陰性」であっても、安心しすぎないようにしましょう。

また、治療薬として「タミフル」や「リレンザ」などがありますが、これらの薬の効果は、一般的に有症期間を約半日分縮めるものと言われており、症状自体を楽にする薬ではありません。熱を下げたり、四肢の痛

みを取るのには解熱鎮痛薬などによる対処療法がメインとなります。インフルエンザかもしれないと思っても、必ず薬を飲まなくてはいけない訳ではないため、体調が悪い中、無理して病院に来なくても、周りにうつらないようにして、ゆっくり水分を取りながら家で休むことも良い治療かもしれません。ただし、数日たつても症状が改善しない場合や、咳とともに黄色の痰も混じるようになったらそれは肺炎など、他の病気の可能性もあるので早急に受診しましょう。

ちなみに、インフルエンザの感染力は発症から5日経つとある程度収まると言われています。インフルエンザにかかった場合は、発症して5日間、かつ解熱して2日間はウイルスの排出リスクが高いと考え、感染拡大に注意してください。何よりインフルエンザにかからないことが一番重要なことであるので、予防接種がとても大事です。お子さまや高齢の方はもちろん重要ですが、私は大丈夫!と思っている方も、一緒に住んでいるご家族にもうつしてしまうことがあるため、予防接種は受けていただきたいと思えます。

当院でも予防接種は随時受け付けておりますので、ご希望の方はご連絡ください。これからの寒い季節を、インフルエンザに負けずに乗り越えていきましょう。



宇部興産中央病院は地域医療支援病院です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地  
地域連携室 ☎0836-51-9421